

平成22年度 病虫害発生予察情報

発生予報第8号(9月後半)

平成22年9月17日
島根県

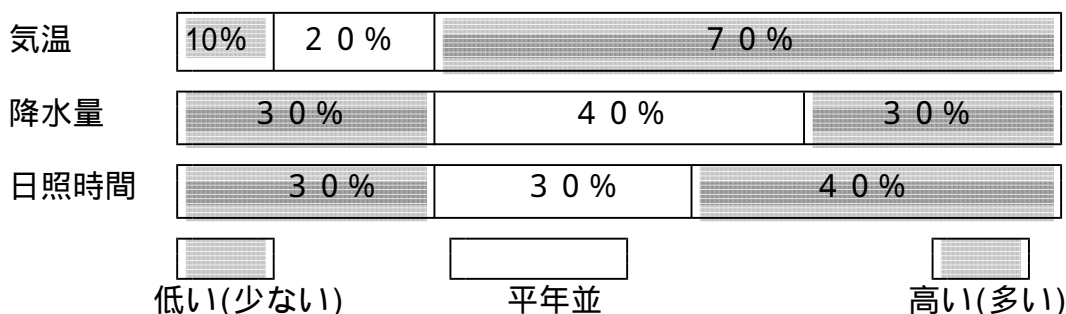
予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量
普通作物	ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い～多い
果樹	カキ	カメムシ類	多い
野菜	キャベツ	黒腐病	やや少ない
		菌核病	やや少ない
	アブラナ科野菜	コナガ	やや少ない～少ない
		ハスモンヨトウ	やや多い～多い

中国地方1か月予報(9月11日～10月10日・広島地方気象台9月10日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

<予想される向こう1か月の天候>



A. 普通作物

1) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ (注意報発令中)

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

出雲市と益田市に設置しているフェロモントラップによる調査では7月から現在までの雄成虫累積誘殺数はやや少ないが、9月2、3半旬の誘殺数は平年より多い。

9月中旬の調査では、本種幼虫による1a当たりの白変葉の平均発生か所数は4.2か所(平年2.0か所)で平年より多く、発生圃場率も平年より高い。

向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) カキ

(1) カメムシ類 (注意報発令中)

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

予察圃場(出雲市)の8月5半旬から9月3半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は474頭(平年342.0頭)とやや多い。

チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月5半旬から9月3半旬までの誘殺数は443頭(平年161.0頭)と多い。

8月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は17.5%(平年5.6%)と多い。

10月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) キャベツ

(1) 黒腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

巡回調査地点において、本病の発生は確認されていない。
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 菌核病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

巡回調査地点において、本病の発生は確認されていない。
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

2) アブラナ科野菜

(1) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

9月中旬の調査では、アブラナ科野菜での卵・幼虫・蛹発生圃場率は0%（平成37.0%）、寄生株率は0%（平成5.1%）で発生量は少ない。

向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(2) ハスモンヨトウ（注意報発令中）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

出雲市と益田市に設置しているフェロモントラップによる調査では7月から現在までの雄成虫累積誘殺数はやや少ないが、9月2、3半旬の誘殺数は平成より多い。

9月中旬の調査では、アブラナ科野菜での卵塊・幼虫発生圃場率は33.3%（平成32.1%）と平成並みであるが、寄生株率は10.0%（平成3.3%）と平成より高い。

向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

ホームページアドレス

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適作物、使用量、濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。